



書家 加藤裕さん作 『久遠』

真宗高田派
賢隆山久遠寺

〒460-0007

名古屋市中区新栄1-4-6

Tel 052-241-5231

fax 052-241-5231

<http://kuonji.net>

Kenryuzan-kuonji@nifty.com

久遠寺住職の いま不思議ないの



ちを生きている!

朝晩、秋の気配を感じます。暑い夏からあつという間に大きな変化をもたらす自然のはたらきに驚くばかりです。

お盆と秋のお彼岸も過ぎ、亡くなられた先輩方を憶念し、今こうしてある我が身に感謝する次第であります。

戦後60余年、国や父母兄弟の為に身を賭して尊い命を犠牲にしてくださいました人々の御苦勞を思います。戦争を体験された方々には、二度と悲しい事態にならぬように、戦争の体験を語り続けてくださることを願うばかりです。

政治の方では、50数年続いた政権も変わり、人々の大きな期待を担っており、この政権交代により、一つの政党に反省を促す結果となりました。また、質問する側から質問される側になったわけですから、相手の気持ちも分かり合えることと思います。これが本当の民主主義であり、大多数の力で押し切るのではなく、少数意見も尊重し、国民の願いに応え得る政治であることを望んでやみません。国を変えようと思つても、まず人間一人一人が変わらねばならないと思いますが、変わらねばならない自分とはいったいどういう人間なのか」と自ら問わなければならぬと思えます。ただ単に、上から下への言葉では、なかなか伝わりにくいのではないのでしょうか。その自分は、誕生の時に廻れば、両親のご縁でこの世に出てきて、赤ん坊の時に

は24時間つきつきりで無条件で育てられ、願いをかけられている訳です。親は子供が立つ木、そばで見てくださいいた訳であります。しかしながら、自分の思いを叶えてくれる親が良い親であり、反対する親は悪い親であると、自分の思いや都合で判断している訳です。

最近では、人間がモノのように扱われるようになり、言葉が通じあうことが出来ないうです。生老病死も、物質化されつつ情のないように思われます。自分がここまでくるには、多数の人々に迷惑をかけるには生きてこれなかったことに気付いて頂きたいです。そして、自分のいのちの歴史の中に先祖の人々の体験の智慧を伺い、今ある自分のいのちは賜ったいのち不思議なのちであると思ふべきでありましょう。先輩の方々の一生を尽くしたいのちの言葉を学ぶ時、割り切れない人生を割り切れないまままで終わるのか、また自分の思いを越えた教えを聞かせてもらい、自分を変えようとする努力でなく、本来の人間の存在を知らされることで、新たな自分に目覚めさせてもらえるのではないのでしょうか。

またそこに現実の事実を受容する智慧を頂くことができるのが、仏法の教えであると確信しております。

久遠寺住職

高山元智

合掌



親鸞聖人

十月

智慧の念仏

うるゝことは

法蔵願力のなせるなり

宝蔵菩薩は、迷い苦悩する人間を救わんが為に永い永い間修行されました。又間の本当の願いとは何であるか」を問いつつ、その本当の願いを成就するまでは仏にならないと誓われました。私たちは、い

十一月

無明長夜の

灯炬なり

かなしみと

無明とは、すべてのことが分かっていないこと、朝がこない永い夜のことで、それは、私たちの飽くなき煩惱が果てしないという意味になります。また灯炬とは、その煩惱の炎を破つてくださる光であり、灯であります。分かっているつもりでいる人間の知が悲しく、だからといって人間に悲しむな、ということではありません。智慧の灯である教えが聞こえないことが悲しいと、親鸞聖人も人生において、思いを越えた仏の慈悲に気付かれた言葉でありましょう。



十二月

如来三種の回向の

恩徳まことに謝しがたし

往相とは浄土へ行く相、還相とは浄土から還つてくる相のことです。回向とは一般的に「私たちが仏に回向する」と考えられています。しかし、真宗では、一つの相がぐるぐると回つて私に向かうという、往とはゆくという意味です。真宗の回向は、私の自分勝手な知識思いが一度死んで、私が生きていることはすべて仏様に生かされて生きている事実に目覚めることなのです。これが往相の相となります。また還相回向とは、私たちの父母、また先祖、聖人、お釈迦さまの真理を追求された人生の経験が、今ことばとなつて、私の生きる教えとなつてくるのです。仏の願いが私に通じたことで、その喜び感動が他を喜び、還る相として、今の私にぐるぐると回つて伝えられてきます。故に、親鸞聖人も法然上人のことを還相の菩薩として崇められたと思います。また来年も善き人との出逢いを大切に致しましょう。

「ご案内」

★平成22年1月9日～16日

高田本山専修寺報恩講

「お七夜」

毎年、久遠寺よりバス参詣をご案内させて頂いております。来年で748年が過ぎます。再来年計画中の750回遠忌報恩大法会も近づいております。寒い時期ではありますが、年に一度の本山報恩講に是非お参りください。

★平成22年2月14日～16日

高田本山専修寺名古屋別院

「報恩講」

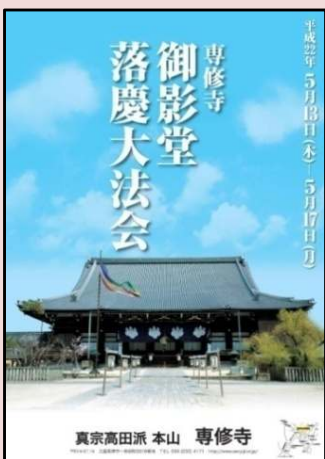
名古屋国際センターの近くにある名古屋別院で報恩講のお勤めがあります。名古屋の高田派寺院が集まる大法会です。最終日のお勤めにはご門主さまもご参勤賜りますので、是非お参りください。

★平成22年5月13日～17日

高田本山専修寺

「専修寺御影堂落慶大法会」

久遠寺にてバス参詣の計画中です。後日ご案内しますので是非ご参加くださることを願っております。



仙教ツマズ

あなたはいくつ答えられる？！

- ①親鸞聖人が法然上人に出会った年齢は？
1 15歳 2 23歳 3 29歳
4 35歳 5 40歳
- ②親鸞聖人が法然門下で過ごした年月は？
1 3年 2 4年 3 5年 4 6年
- ③親鸞聖人の流罪の事をなんという？
1 承元の法難 2 建永の法難
3 建暦の法難
- ④親鸞聖人は流罪でどこに流された？
1 伊勢 2 美濃 3 土佐
4 越後 5 安芸
- ⑤親鸞聖人の流罪中のお名前は？
1 藤原善信 2 藤井元彦
3 藤原元彦 4 藤井善信

答えは、ページの一番下！！

久遠寺の掲示板



仙教とは
自己奪還の
運動である
安田理深

仙教とは自己奪還の運動である

安田理深

仙教とはいかなるものか。自己とは何か。自己とは、知れば知るほど深みにはまり、見つめれば、見つめるほど自分が分からなくなるものと思います。世間の欲に満ちた魅力的なものに惹かれ、いかに自分を自分でなくしているか。その姿こそ迷いに迷っている私であります。このことに気付かせてくださり、我が身を見つめる手段を教えてください。それが仙教です。迷う私自身を、私ともに奪い返してくださるのが、仙様のはたらきであり、救ってやるぞ」との願いなのです。手を合わせ、本当の自己とは何かを問い続け、感謝のお念仏を称えましょ。

長編連載 『実え合』④

昭和区 久遠寺檀家の一員さん

特に連日、通院の身ともなれば如何なる氣力、精神力を保持していた者でも打撃は他人の窮造を越すものがあるものと思われます。人間一寸先は闇と先人も申しておりましたが、朝の来ない夜はなし、雨も一生降り続かない、苦難の先には少なくとも快楽があるものだと思いたいものです。

この世に生を受けて以来ひと時の休みもなく、動き続ける心臓こそ、我々の意思では左右できない、正に生かされている心境でしょう。そこには、当然のことながら感謝の心が目覚めることでしょう。そうした心が一切の事を尊み、一切を感謝して今日一日を大切に過ごすことを先ず実践することです。介護のボランティアにかかわる人、地域の発展のために貢献する人、災害時に援助する人、等等、共助の精神には頭が下がる思いです。出来得ることなれば、体力のある元気なうちに行動あるのみです。人間の幸せは健康の上に成り立ちます。誰しも病んで初めて健康の有難さを実感するものです。昭和四十年代の高齢成長期に核家族化が進み、古来からの家族制度が崩壊して、家族の絆も希薄になり民衆のつながりも一層薄らいだ現実です。昔は「龜の甲より牛の功」といって経験豊かな牛寄りの知恵を重宝したものでした。

次号へ続く……

『存じてすか？』

キリスト教やイスラム教など食事の前や後にお祈りしますよね。私たちの真宗高田派にも食事の言葉がちゃんとあります。

食前の言葉

われらもついに
「このころわしき食を食へ
みほつげのめぐみを思ひて
いただきます」

食後の言葉

われら
「このころわしき食を終りて
心ゆたかにちから身にみつ
いただきます」

食事はわたしたちのいのちをつなぐ大切なものです。そのためにも小さないのちをいくつもいくつも頂戴して生かしてもらっていることに気付かねばなりません。自分の命を支えてくれるいのちたちに感謝し、必要なだけの食事で十分ではないでしょうか。そうすると、痩せちゃった☆ということ効果も期待できるかもしれませんよ。食事の言葉が、食卓の定番メニューになればと願っております。
南无阿弥陀仏

平成 年度報恩講
が終わりました！



法要中の全体風景

平成21年度の久遠寺「報恩講」も無事終えることができました。当日は、雨予報でやはりというべきか、昼過ぎから急な雨風に見舞われました。突然でしたので、ご参詣の方々の靴は外のままでしたが、ご参詣の方々が一斉に濡れない場所に靴を移動し、ビニールシートで縁側を覆って下さいました。本堂に驚きましたし、本当に感謝の気持ちでいっぱいになりました。迎える側、参られる側となると現代社会では、はっきりと線引きがされているように感じます。しかし、「なんとかせねば」のおこころでみなさまが協力して動い



本堂の様子



式文拝読中の任職

てくださる姿は、まさに寺が支えられているという実感でした。本堂にみなさまのご協力なしでは、報恩講のお勤めをすることは叶いません。是非、毎年毎年迎える「恩に報いる講」にご参詣くださることを心より願っております。また今年初めて行った「報恩茶会」。たった2時間でしたが、本堂に多くの方が来て下さいました。お茶室で気軽に一服して頂いてから、報恩講のお勤め。皆様に楽しんで頂けるよう、来年も頑張りたいと思います。この度は、本当に有難うございました。当寺も時代の流れに合わせ、椅子席を計40席用意させて頂きました。お念仏のお勤め、ご法話とともに足の痺れを心配せずご聴聞頂けるようになりましたことをご報告致します。

南无阿弥陀仏
高山信雄

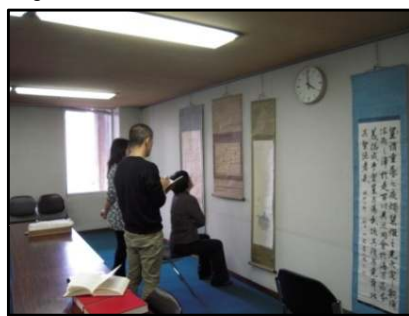


茶室&茶室入口



編集後記

今年八月に催しました「虫干」。軸についてわからないことばかりでしたので、お檀家様のお力添えにより名古屋博物館の学芸員の先生にいろいろとご教示して頂きました。持ち込んだ軸の総数は25本もあり、一本一本丁寧に見て頂き、みっちり3時間強もお付き合ひして頂きました。読めなかつたものを読んで頂き、またおおよその製作時代、書いた方はどういう方だったか、また保存の仕方など勉強させて頂きました。知らないなら知らないままですが、少し垣間見えると楽しさが数倍になりました。このことは、何事にも通じそうです。来年どのような形で「虫干」を催すかまだ未定ですが、大方の内容もわかたので、今年よりはいろいろとご説明できそうです。是非、その時はご来寺ください。是非、その時はご来寺ください。是非、その時はご来寺ください。



博物館の一室で鑑定中

南无阿弥陀仏
高山信雄

◎お経本は床に置かないで下さい。
◎皆様の寺報記事を随時募集中です。ご連絡をお待ちしております。

今後の予定

11月20日
午後1:30~

阿弥陀経に聞く
第32回法話会

久遠寺本堂

12月18日
午後1:30~

阿弥陀経に聞く
第33回法話会

久遠寺本堂

1月10日
午前8:30~

修正会 お正月
お墓参り

平和公園

1月9日(土)
~16日(土)

高田本山報恩講
お七夜

高田本山専修寺

2月14日(日)
~16日(火)

名古屋別院報恩講
報恩講

専修寺名古屋別院

是非皆様お揃いでご参詣ください。